

## 令和4年度 第1回小平市図書館協議会要録

- 1 日 時 令和4年5月17日（火）午後2時から3時20分まで
- 2 会 場 中央図書館 2階会議室
- 3 出席者 委員：8名（欠席4名）  
事務局：中央図書館長、中央図書館長補佐兼庶務担当係長、花小金井図書館長、小川西町図書館長、資料担当係長、サービス担当係長、喜平図書館長 計7名
- 4 傍聴者 なし
- 5 配付資料
  - ・小平市立図書館職員の異動について (資料No. 1)
  - ・令和4年度図書館協議会開催日程 (資料No. 2)
  - ・令和4年度小平市立図書館事業計画 (資料No. 3)
  - ・小平市立図書館行事等の報告と今後の予定 (資料No. 4)
  - ・小平市立図書館休館のお知らせ (資料No. 5)
  - ・令和3年度「市長への手紙・図書館への私の意見等」集計結果 (資料No. 6)
  - ・月別館別貸出資料数 (資料No. 7-1)
  - ・月別館別登録者数 (資料No. 7-2)
  - ・広域利用市別貸出 (資料No. 7-3)

### 6 議事

#### (1) 報告事項

##### ①令和4年度図書館協議会開催日程について（資料No.2）

事務局： 令和4年度は年6回の開催を予定。日程変更となる場合は早めに通知する。

##### ②令和4年度小平市立図書館事業計画について（資料No.3）

事務局： 前回の本協議会で確認し、2か所の修正を行った。修正部分は、2ページ「基本方針」の最後の項目「(8) 公文書館機能の充実 令和4年10月に小平市公文書等の管理に関する条例が本施行されるのに伴い、公文書館機能を充実させます。」を加えた。また、3ページの「実施事業」の一文「また、社会情勢の変化によって生じている広汎で多様化するニーズに応えるため、」の後ろに「市の関係部署との連携や関係する団体との協働を進め、」という一文を加えた。

### ③図書館運営状況について（資料No.4）

事務局： 前回の本協議会（3月24日）から本日までの報告、ならびに次回（7月5日）本協議会開催までの予定について記載している。

- ・令和4年3月30日、ハンディキャップサービス交流会を開催し、図書館の利用に際して障がいのある方とボランティア団体、図書館、社会福祉協議会、小平図書館友の会の会員の方などが集まり交流を図るとともに意見交換を行った。障がい者サービスの向上を目指し、様々な立場の人たちが一堂に会して話し合い、視覚障がいの方からはオーディオブックなどの導入などについて意見があった。
- ・4月2日から5月18日までの「こだいら子ども読書月間」において、各館で事業を実施した。5月14日（土）15日（日）、仲町図書館では、なかまちテラスギャラリーを公民館と共に開催し、展示や子ども向けのDVDの上映などを行っている。
- ・6月12日（日）は、小平市子ども文庫連絡協議会の設立50周年記念講演会を共催で実施する。杉山きく子氏による講演で、対面とZoomのハイブリットで開催予定。

### ④小平市立図書館の臨時休館について（資料No.5）

事務局： 令和4年は6月7日（火）ら24日（金）の期間、市内の図書館を4つのグループに分けて、資料の点検・整理を実施するため、臨時休館となる。利用者への周知は、館内ポスター、チラシ、市報、ホームページ等で行う。

### ⑤令和3年度「市長への手紙・図書館への意見等」集計結果について（資料No.6）

事務局： 令和3年度は、合計61件の意見が寄せられた。

- ・令和3年度は4月から5月にかけて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で休館をしたため、特徴的なものとして、「電子図書館サービスを導入してほしい」、「図書消毒器を設置してほしい」、「開館時間を延ばしてほしい」、「ホームページを見やすく改善してほしい」等の意見があった。このうち、図書消毒器については令和3年12月に中央図書館に1台設置をした。

### ⑥令和3年度月別館別貸出資料数等について（資料No.7）

事務局： 令和3年度は、4月28日から5月31日まで新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、5月の利用が予約貸出のみとしたため、5,500点前後と大きく落ち込んだ。

- ・令和4年の1月、2月、3月は各月12万点弱となっているが、前年同期は12万点強であったので、やや減少傾向にある。
- ・月別、館別登録者数について。12月は暦の日数の関係で少なくなっているが、1月以降は例年並みの人数となっている。館別登録者数については前年度よりも9万人ほど増え、50万6,000人を回復しており、一昨年度の50万5,981人をわずかに上回った。
- ・広域利用市別貸出について（資料No.7-3）。前年度対比でかなり増えているが、前年度の令和2年度はコロナの影響での休館期間が2か月以上あったために増加したものである。

- 会 長： (1)の報告事項について、質問等はあるか。
- 委 員： 令和4年度小平市立図書館事業計画の6ページ、「(9) なかまちテラス事業の実施」に関して、「ICT機器の導入」とは、どのようなものを指すのか。
- また、「公民館と図書館の両機能の相乗効果を図る事業」となっているが、大沼図書館や津田図書館のように公民館と併設している場合と、なかまちテラスの場合は、どのように違うのか。
- 事務局： 仲町図書館では、すべての蔵書にICタグを貼り付け、それに対応したブックディテクションシステム(BDS：貸出手続きをしていない図書を持って出入口(ゲート)を通ると警告音になる盗難防止のためのセキュリティ)を導入している。
- また、ICタグの導入によって、自動貸出機を設置することができ、図書館職員が対応することなく、利用者が自身で本の貸出処理をすることが可能となっている。
- なかまちテラスと、津田図書館や大沼図書館のような他の公民館との併設図書館との違いについて、仲町図書館では仲町公民館とより一体化した運営を行っている点である。具体的には図書館の職員が公民館の窓口に一時的に従事するというような業務での協力や、「なかまちテラスLINKS」といった取り組みを通じ公民館と図書館で一体的な事業を行っている。津田図書館・公民館や大沼図書館・公民館は、建物は一緒だが事業についてはそれぞれ独立して行っている。
- 委 員： 前回の協議会では、公立小・中学校においても目標の数値化に取り組んでいるという話が挙げられていた。図書館事業においても、目標設定の際の数値化は考えているのか。
- 事務局： 事業計画においては具体的には掲げていないが、統計資料として数値をまとめており、歴年、経年の比較の中で変化をとらえている。
- 委 員： 小平市産業振興基本計画ではKPI(重要業績評価指標)が示してある。
- 図書館も具体的な目標数値を示してはどうか。
- 事務局： 今後の検討課題としたい。
- 委 員： 令和4年度小平市立図書館事業計画4ページの「3レファレンス機能の充実」の⑤ビジネス支援に関する情報提供の充実について、立川市の図書館のようにホームページ等で図書館が具体的にビジネス支援において何ができるかを示してはどうか。
- 事務局： 今後の課題として検討したい。
- 委 員： 小平市産業振興基本計画の中には図書館の役割が示されていないが、地域を活性化するという意味では図書館は情報を集積する機能があるので、今後、可能ならば、このような計画の策定の際には図書館も関連部署として入ってはどうかと思う。
- 会 長： 市では計画を策定する際には、関連する部署を委員に加えるというようなことをどの程度行っているか。
- 事務局： 関連する部署が委員に入って計画を策定するようなことは行っており、図書館でも子ども読書活動推進計画については、関連する部署に入ってもらい、計画の検討をしている。他の部署の計画の策定への参加については、図書館と関連がある内容であれば、参加することになる。

会 長： 他の部署の計画の策定については、市の全体の動きを見て、図書館に関連する内容であれば積極的に参加するようなアクションを起こしてもらいたい。

委 員： 月別館別貸出資料数など様々な統計について説明があったが、この2年間の統計は、参考にするのが難しい数値だと思う。可能であれば、新型コロナウイルス感染症の流行前と比較して、どの程度数値が戻ってきたのかが分かるとよいと思う。

図書館の統計数値として多く用いられるのは貸出資料数になるが、そのことに関する批判があることも事実なので、例えば、なかまちテラスに設置されているブックディテクションシステム（BDS）を活用して、なかまちテラスだけでも滞在する人の統計や人の動きを見ていく取り組みがあってもよいと思う。

調査統計を行うと人件費なども発生するので、自動化して実施可能な方法で行うことができれば良い。

事務局： 令和元年度末から令和2年度、令和3年度と、臨時休館の期間もあって、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響が大きかったと認識している。単純に前年度と比較するという点であると参考にするのが難しいというのはそのとおりである。

なお、令和3年度の全般の統計に関しては、現在、取りまとめをしており、まとめ次第、図書館事業統計として報告をしたい。

貸出資料数などの統計値を比較対象にすることへの批判があるというのは指摘のとおりであり、全国的にも貸出冊数も落ち込んでいる現状もある中で、比較対象が妥当かという思いもある。

なかまちテラスの滞在者数の人数については、ブックディテクションシステム（BDS）で、仲町図書館と仲町公民館の全体の利用数を捉えることができるのではないかとと思う。

新型コロナウイルス感染拡大以前の状況との比較では、現状としては完全には戻ってはいない状況であり、月々によってかなり変動があるので、数値をよく見る必要があるが、9割程度の回復状況であると思う。

会 長： 仲町図書館ではブックディテクションが設置されているので、滞在時間や人数など、施設の利用者状況を捉えることが可能であると思うがどうか。

事務局： なかまちテラスのブックディテクションシステム（BDS）は、図書館と公民館の共通の出入口に1か所設置しており、仲町公民館のみ利用する方々も通過している。

図書館利用者のみを把握するには現在の設置場所では難しく、施設一体としての利用者数ということになる。他の統計として図書館の利用カードの登録があるので、利用者の年代などは、他の図書館でも数値として捉えることができている。

会 長： ブックディテクションシステム（BDS）やICタグを導入したことによる数値として表れているメリットはあるか。

事務局： ICタグを導入することにより、自動貸出機を導入できるというメリットがある。利用者が自動貸出機を使う比率も上がってきているので、利用者の利便性の向上を打ち出して、小川西町の新しい図書館にも展開していきたいと考えている。

委員： ブックディテクションシステムの設置目的の一つは盗難防止であると思うが、仲町図書館では他の図書館と比べ、どのような状況か。

事務局： 正確な数値は持ち合わせていない。他自治体などではブックディテクションシステム（BDS）が設置してあることで盗難防止に一定の効果があるという結果は出ている。

盗難防止に関しては、カウンターの出入口のレイアウトなども含めて、どのように対応していくかという工夫もある。

委員： 令和4年度小平市立図書館事業計画に関して、充実を図る、推進していく、展開する、といった表現が多い。事業計画に細かく具体的に記すことはできないと思うが、充実であり推進の中身については、現場で仕事にあたる人がきちんと理解する必要があると思っており、データを活かしていくという意識で業務を行ってほしい。

事務局： 事業計画にすべて入れ込むことは難しいが、事業を行った際には実施報告等において、例えば、どのような要因で参加者の増減があったか等の内容を入れるなど、次の事業の実施に活かせるようにしていきたい。

委員： 図書館のホームページは、市のホームページと独立して別にあると思うが、見やすいホームページというのは、どのように捉えているか。

事務局： 市と独立した独自のホームページがある。見やすさということに関しては、視覚的に色合いやデザインという部分で見やすいということがあり、それとともに利用者が自分の欲しい情報にたどり着きやすいということがあると思う。

ホームページに関しては、軽微なところについてはすぐに手直しをするということはあるが、大きくレイアウトを変更するというような場合は、システムそのものをいじるというようなタイミングで、意見の蓄積をもとに変更をするということになる。

委員： ホームページに関する意見やその分析については、私たちに時々教えてもらえるのか。このような意見をもらったので、このように変更していくというような変化について感じられるとよい。

もう一点、ホームページの背景が黒になる場合と白の場合とあるが、視覚障害の方にとって見やすいように全ページにおいて背景の色が変えられるとよいという意見を聞いたことがあり、図書館のホームページも一部はそうなっているが、全ページではないので、その辺りは比較的簡単に変更できると思うがどうか。

事務局： ホームページの背景色は、ある範囲の中の部分についてはできると思うが、蔵書検索の部分については、本体の図書館のホームページとは一部独立した構成になっている。システム更新の機会が数年ごとにあるので、利用者からの様々な意見等を蓄積し、事業者と調整をしながら反映させていきたい。

委員： ホームページに関して、他の自治体では単にアクセス数だけでなく、動線分析のようなことも行っている。昔は高度な技術を要するものだったが、今ではアクセス分析のためのツールを活用することで、従前ほど大変ではないと思うので実施してみるとよい。

先程述べたように、図書館の統計というと貸出冊数が指標になりがちだが、例えば小平市の図書館のホームページがどのように利活用されているかが可視化できれば、それも図書館の活動の評価に繋がると思うので、労力をかける意味があるのではないかと思う。

事務局： 現状、図書館のホームページについては、全体で閲覧数がいくつというような数字のみ捉えており、動線分析は困難であるため、ホームページを管理している事業者と相談することになるが、時代とともにできることが増えてきていると捉えている。

会長： ホームページについて、図書館では一つ一つの画面についてアクセス数等を捉えることができるのか。個人の動線分析というのは難しいと思うが、画面ごとにアクセスしている利用者の人数は分かるのではないか。

委員： 基本的には、ある画面にたどり着いて、そこからどのように移動したというデータは取ることができると思う。

どのような人がということは、資料の検索や予約と紐づけないと難しいと思うが、紐づけようと思えば、年代や性別などについてはデータを取ることは可能だと思う。

動線分析に関しては10年以上前からツールは存在しているので、特に新型コロナウイルスの感染拡大でオンラインコンテンツのようなものを様々な図書館で導入している。費用をかけて作ったコンテンツに関して、作ったままで実は誰にも利用されていないというのは本来的にはあってはならないので、その後どのように利用されているか、その利用のされ方のようなものを把握したほうが良いと思う。

それから、図書館ホームページは、図書館本体のホームページから蔵書検索のページに行く人だけではなくて、蔵書検索のページに行っても本の検索だけして離脱してしまう人もいる。例えば、動線分析で、図書館本体のホームページと蔵書検索のホームページの独立性が高いことで、蔵書検索だけを利用して離脱してしまう人ばかりであるということが分析の結果として分かれば、蔵書検索のページでも本体のホームページの新着コンテンツをバナーなどで宣伝しないと見てもらえないということが分析できるのではないかと思う。

会長： そのようなことは、図書館本体のホームページと蔵書検索のページの利用人数が把握できればわかるのではないかと思うが、いかがか。

事務局： 現状としては、そこまでの内容は把握できていない。令和5年度以降、システムの入替の機会を捉えて検討したいと思う。

会長： 今でも把握ができる内容ではないのか。

事務局： 事業者を確認してみないと詳細は不明であるが、現状では、全体のアクセス数のみである。

委員： 以前に見せてもらったシステム構成図だと、アプリケーションサーバーにアクセスログを取っているので、アクセスログのデータにアクセスできれば、把握することは可能であると思う。

また、各コンテンツに外部のアクセス分析ツールをはめ込むことができれば、その分析ツールにデータを読み込んでおくと、コンテンツ間の行き来なども把握できると思う。

事務局： 事業者を確認したい。

委員： 例えば、市のホームページで行っている分析方法があれば、同じようなことができるようにしてもらえればよいと思うが、市のホームページでも分析は行っていないのか。

事務局： 市のホームページの詳細は把握していないので、ここでは回答できない。

委員： 以前、他のホームページでログの分析を行ったところ、プルダウンメニューを使用すると直接、他の内部のページに遷移するのだが、多く人がトップページを経由して他の内部のページに遷移するということが分かったので、ホームページを改良したというようなことを聞いた。アクセスログ分析ができると、使い勝手の良さにつながるような話ができると思う。

委員： ホームページの分析については、何が知りたいかということをお先に話しておく必要があると思う。

事務局： 内容については研究していきたい。

会長： 目標の数値化については、まず図書館ができるものは何か、今までの実績を踏まえて考えるということをしてもらいたい。

委員： 令和3年度「市長への手紙・図書館への私の意見等」集計結果（資料No. 6）で、電子図書館サービスの導入について意見があったということであるが、「3レファレンス機能の充実」の部分に位置付けられている「国立国会図書館デジタル化資料送信サービス」は、ある意味、電子図書館サービスなので、小平市も国会図書館のデジタル化資料の利用を促進しているということで広く周知してもよいのではないかと。今までは、著作権保護期間を過ぎた資料のみであったものが、公共図書館と大学図書館等に向けて入手困難な絶版資料の配信ができることになったので、例えば、国立国会図書館の資料の中から資料を探し出すというような講座の開催も可能ではないかと思う。

会長： 電子資料については、設置されている館のみで全館で見ることができていないと思うがいかがか。

事務局： ひとくちに電子資料といっても、WEB上で無料公開されているようなものや、オンラインサービスのようなものなど、いくつか種類がある。具体的には、各館にはインターネットを利用することができる端末はあるが、データベースサービスは中央図書館と仲町図書館のみの利用となっている。今後、市の公共施設全体でWi-Fi環境が整ってくれば、他の地区図書館でもサービスを広げていけるのではないかと考えている。

会長： 長年の課題なので、今後考えていかなければならないと思う。

## (2) 協議事項

なし

## (3) その他

事務局： 本日、情報提供として「小平第十一小学校等複合施設の整備に関する基本計画」について、資料として同計画の概要版を配付した。

花小金井4丁目にある小平第十一小学校は、建物の老朽化が進んでいることなどから、建て替えることを決め、新しい小平第十一小学校に関する基本計画の策定を進めている。学校の建て替えにおいては、教育活動の充実、教育環境の向上を図るとともに、小学校へ地域学習・コミュニティ機能を複合化することにより、小学校を地域の核とした地域コミュニティの醸成を図っていくことを目指し、取組みを進めており、学校や地域から寄せら

れた意見を踏まえ、整備コンセプト等を整理し、このたび基本計画の素案がまとまったところである。

計画では、仮称・十一小地区交流センターとして、近隣にある花小金井北公民館、花小金井北地域センターを複合化する予定となっている。

なお、現在花小金井北公民館内にある「図書館の花小金井北分室」については、新しい施設には含まないこととなっている。

詳細については、次回の図書館協議会において、本計画と小川駅西口の計画の経過報告なども併せて、公共施設マネジメント課の職員から説明ができるよう調整をしている。

会 長： 「小平第十一小学校等複合施設の整備に関する基本計画」の件に関しては、次回の図書館協議会で説明を受けるということにしたいと思う。

この他に質問等はあるか。

委 員： 市長への手紙の主な意見において「図書館シールの位置は、表紙のイラスト等に配慮してほしい」というものがあるが、対応は可能であるか。

事務局： 職員が装丁を行う場合には事前に考慮ができるが、図書館に納品される図書資料の多くは、事前に事業者の工場では統一して表紙の中央、下の部分にバーコードを入れるという仕様としている。利用者からのご意見やご要望、また表紙のイラストとのバランス等を考慮すべき際には、図書館の職員が張り替え作業を施すといった対応をしている。

以上

(次回、令和4年7月5日(火)午後2時から開催予定)